

3 成果の詳細

- 平成8年に3.92haの試験地に自生木を含む全83種について、原則3,000本/ha、一部3,500~4,000本/haで植栽し、その後、下刈りは全刈りで、一部筋刈り。初期成長良好なものは2~3年で下刈りを終了した。乾燥害・寒害及びノウサギ等による食害が発生したため補植を行なった。ほかに枝打ち、本数調整伐も実施。成長量調査と病虫害被害調査を行い、「広葉樹展示林図鑑」としてとりまとめた。(図2)
- 各樹種の成長は、生育環境の特性に左右され、南九州地域に適した郷土樹種が良好な成長を示した。ブナ等の寒い地域で生育する樹種は良好な生育が見られなかった。
- 植栽木と自生木の成長量の違いは、キハダ・ヤマグワとともに、自生木が植栽木よりも成長旺盛で病虫害への免疫性も高い傾向が見られた。

九州森林管理局 森林技術・支援センター	
樹種名	イヌエンジュ
科目	マメ科
学名	<i>Maackia amurensis</i>
分布	北海道、本州(関東・中部地方以北)の山地や丘陵の日当たりの良い落葉広葉樹林に散生している。
樹木特性	陽樹であり、山地や林縁や川岸など、肥沃な日当たりの良い適潤地を好む。
用途	材は堅く緻密である。心材は暗褐色、辺材は淡黄白色で心材と辺材の対比が美しく床柱は珍重される。家具・菓子器・彫刻・おもちゃ材に利用。
植栽本数/面積 (植栽密度)	839本/0.18ha (3,500本・4,000本/ha)
特徴	<p>【樹形】 マメ科の落葉高木で、高さ10~15mとなり、葉は奇数羽状複葉。小葉は7~11枚、卵形で長さ4~8cm。7月から8月にその年に伸びた枝の先に複総状花序を出し、蝶形花(ちょうけいか)を多数つける。 花は白く長さ10~12mm、蝶形花冠の旗弁(きべん)は強く反り返り、10本の雄しべは基部まで離生する。 豆果は広線形で扁平(へんぺい)、長さ4~8cm、上側の縫合線に沿って狭い翼がある。種子は3~6個。 庭木とされ、材は環孔材で重く堅く緻密で美しくねばり強いので床柱、あるいはシタンの代用として家具、細工物に使われる。心材は暗褐色、辺材は淡黄白色で心材と辺材の対比が美しく床柱として珍重される。</p> 
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。また、環境の要因が原因と考えられる枯死も見られた。 植栽から18年を経過した平均樹高は4m程度となっており成長は早いとはいえず、現存率も11%と低い結果となった。
被害	コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ44本、カミキリムシ類:3本)

図2 広葉樹展示林図鑑の例(郷土樹種)

4 技術開発担当機関及びお問合せ先等

- 担当機関：九州森林管理局 森林技術・支援センター
- 共同研究機関：なし
- 実施箇所：去川国有林263は林小班(宮崎県宮崎市)
- 開発期間：平成8年度~平成26年度
- お問合せ先：九州森林管理局 森林技術・支援センター、ダイヤルイン(0985-82-2211)

5 参考情報

【九州森林管理局 Web サイト掲載情報】

[完了報告・実施報告\(H13③~19\)\(PDF:7491KB\)](#)、[実施報告\(H13②\)\(PDF:8020KB\)](#)、[実施報告\(H12②・13①\)\(PDF:8857KB\)](#)、[実施報告\(H9~12①\)\(PDF:9834KB\)](#)、[実施報告\(H8②~10\)\(PDF:8992KB\)](#)、[実施報告等\(H8①\)\(PDF:9445KB\)](#)